

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1174300028
法人名	社会福祉法人 宥和
事業所名	グループホーム トマト村
所在地	〒367-0031 埼玉県本庄市北堀1946番地1 (電話) 0495-27-4441

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年12月16日

【情報提供票より】(平成20年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月29日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 20人, 非常勤 0人, 常勤換算	14.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	40,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	370 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
または1日あたり 820円				

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	9 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡病院、医療法人健友会・口腔ケアセンター
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平成14年3月に開設され2階建・2ユニットで運営されており、利用定員は18名である。新幹線本庄早稲田駅に近い田園地帯に位置し、現在開発のための大規模工事が行われているが近くには公園もある。隣接地には法人系列の特別養護老人ホームやデイサービスセンターもあり、高齢者との交流もある。ホームで掲げている理念のもと、日々さりげない支援がされており、職員と利用者同士の会話も和やかで暖かいケアが提供されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を月1回の職員会議で取り上げ、職員全体で改善策を検討している。その結果、運営推進会議の意見の共有や食事のあり方については、職員が利用者と一緒に食事を摂る試みや、災害時の地域住民の協力体制の検討など積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は自己評価、外部評価の意義を理解しており、改善するような事例については、職員会議で取り組みサービス向上につなげている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、自治会長、地元の方、利用者、家族、事業所の関係者などの出席により開催されている。議題については、ホームの近況報告や行事の案内、情報交換などが行われ、家族の意見も積極的に提案されている。市役所には会議録を持参して説明し検印を受けている。なお、会議の結果は事業に反映させている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応は明確にされている。毎月の金銭管理を家族に報告し、近況報告と共に、2か月に1回発行されている「トマト村だより」を送っている。また、来所時にはそのつど近況報告し、連携が保たれている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会しており、地域主催の行事に積極的に参加しているほか、近くの公民館や文化会館に出かけたりイベントにも参加して地域の人たちと交流している。近隣の小中学校との交流も行われ、ホームの納涼祭などには地域の人々の参加もあり、地域との連携が図られている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げ、自尊心を大切にしながら、地域の中でゆったりと穏やかな生活を過ごせることを目標とし、毎日の暮らしの中で実践していくよう努力している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はいつでも目に触れるところに掲示されており、毎日の昼礼の折には唱和するなど、日常的に話し合っ意識した上で業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、地域のイベントに積極的に参加したりホームの行事にも地域の人々の参加を得ているほか、地元の小学校や中学校との交流もされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価、外部評価の意義を理解しており、前回の外部評価の結果も踏まえ、改善するような事例については、職員全員で積極的に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会長、地元の方、家族、利用者、事業所関係者の参加を得て2か月に1回開催されている。会議では、行事計画や外部評価の取り組みなどの報告をするとともに、家族との意見交換が行われ、出された意見についてはサービス向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の介護いきがい課には、運営推進会議の議事録を持参して報告し検印をもらっている。相談、調整は適宜行い連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の金銭管理の報告時に近況報告をし、2か月1回発行される「トマト村だより」を同封している。また、来所時にはその都度状況を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するとともに、家族との食事会や運営推進会議などの機会に意見を出してもらい、出された意見については速やかに対応し運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はあるが、利用者に不安を与えないよう声掛け等対応に配慮し、職員同士でフォローして支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受ける機会の確保や、研修情報の案内がされ、希望者は受講することができる。研修受講後は報告会を行い、内容の共有がされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、勉強会や事例検討会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族に見学してもらい、ホームの雰囲気に触れ自然に慣れるようにしている。入居後も家族の協力を得て外泊したり連絡を取り合っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買い物や食事作り、草取りなど職員と一緒にいながら共に支えあう関係を作っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や日々のかかわりの中で、利用者の思いや意向を把握し、必要に応じた支援をしている。また、担当制がとられ、必要な情報は共有されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成に当たっては、家族や利用者からの情報と担当職員の情報を基に処遇会議が開かれ、利用者本人、家族と連携して全員で計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直しを行い、個々の状態の変化に応じた見直しもなされ、職員全体で話し合い新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の情報を把握しながら、かかりつけ医の受診など柔軟に対応している。また、法人内の看護師による医療連携体制や合同でのイベント開催なども行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。体調不良時には、提携病院による対応が可能であり、往診や電話連絡などがなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明するとともに、重度化に伴ない、家族との話し合いやかかりつけ医との相談の機会を持ち職員会議で話し合うなど、対応方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応には配慮し、職員間で注意し合うようにしている。個人ファイルの保管は適切である。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースを尊重しながら、希望にそった日々が過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者一人ひとりの食事の摂取状況を把握しながら支援している。また、利用者も可能な範囲で食事の片付けやテーブル拭きなど出来ることを職員と一緒にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回の入浴が可能であり、利用者に合わせ楽しみながら入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や力を活かした支援がされ、洗濯物たたみなどの役割の場面があったり、気晴らしのための外出を取り入れるなど、個々に合った支援に取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、その日の利用者の状態により希望にそった外出ができるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠されておらず、職員の見守りとチャームを取り付けることで、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練が消防署立会いのもと実施されている。隣接する同法人の協力体制は出来ており、連携体制による消防訓練も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事の摂取量はチェックし記載されている。栄養士により栄養のバランスやカロリーなど把握管理されている。また、一人ひとりの状態に合わせた食事の形態が工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールや廊下、トイレなどのスペースは広く、日当たりの良い廊下に椅子が置かれ寛げる場所となっている。食堂兼ダイニングには畳の部分もあり家庭的な雰囲気である。自分たちで作成した作品も飾られ、居心地の良い空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みのものが持ち込まれ、利用者の個性が感じられる居室となっており、居心地よく生活できている。		